

平成24年9月定例会 議員提出議案

議長（瀧田啓剛君） 次に、日程第3 議員提出議案第2号及び議員提出議案第3号を一括して議題といたします。

まず、議員提出議案第2号 北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書について、提出者、澤村 理君から提案理由の説明を求めます。

澤村 理君。

〔2番 澤村 理君 登壇〕

2番（澤村理君）

議員提出議案第2号

北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書

射水市議会会議規則第14条の規定により別紙のとおり提出する。

平成24年9月19日 提出

提出者	射水市議会議員	中川一夫
	〃	中野正一
	〃	澤村 理
	〃	山崎晋次
	〃	菅野清人
	〃	奈田安弘
	〃	義本幸子

提出者を代表して案文を読み上げ、提案理由の説明にかえさせていただきます。

北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書

北朝鮮による日本人拉致事件の発生から既に30年以上が経過し、平成14年9月の日朝首脳会談において、北朝鮮が日本人の拉致を認め、初めて謝罪してから、10年の歳月が流れた。

この間、日本人拉致被害者5人とその家族の帰国が実現し、政府においては内閣総理大臣を本部長とする拉致問題対策本部を設置し、拉致問題担当大臣を任命して被害者の即時帰国や拉致問題への総合的な対策を推進されてはいるものの、いまだ政府認定の拉致被害者や北朝鮮によって拉致された可能性が排除できない多くの失踪者の消息がつかめていない。本年8月には、終戦前後に亡くなった日本人の遺骨返還問題をきっかけに4年ぶりとなる予備協議と位置付けられた外務省課長級による日朝政府間協議が行われ、「双方が関心を有する事項を議題として幅広く協議する」とした局長級による政府間協議の早期開催に向け調整することで合意したが、拉致問題の議題化については依然として不透明な状況である。

長年にわたり北朝鮮の地で救いの手を待っている拉致被害者の苦しみと、拉致被害者の帰りを待つご家族の方々の怒りや悲しみは今も続いており、拉致被害者とそのご家族の高齢化が懸念される中、政府は、拉致問題の早期解決にもはや一刻の猶予もないことを改めて認識すべきである。

拉致問題は、人権侵害であるばかりでなく国家主権の侵害でもあることから我が国にとって極めて重大な問題であり、国の責任において解決すべき喫緊の課題であることは揺るがない。

北朝鮮では昨年12月に国防委員長である金正日が死去し、政権が交代した。新体制となっ

た今こそ、新指導部が、平成 14 年の日朝平壤宣言、平成 17 年の六者会合での共同声明、平成 20 年の日朝実務者協議での合意内容に立ち返り、国際社会の責任ある一員としての道を進むよう政府として働きかけ、拉致問題解決に向けた実質的交渉の場に引き出すことが重要である。一方で、権力移行期の混乱から拉致被害者の安全が脅かされる危険もあり、拉致被害者の安全確保に向けた対策も早急に検討しなければならない。

また、北朝鮮は、本年 4 月には「人工衛星打ち上げ」と称する長距離弾道ミサイル発射実験を強行し、平和を希求する国際社会への挑発行為を継続しており、政府は断固とした態度で臨む必要がある。

よって、国会及び政府におかれては、北朝鮮政府に拉致被害者の再調査を強く求めるとともに、北朝鮮による人権の侵害を世界にさらに広く訴え、強固な国際連携のもと、拉致問題の全容解明及び早期解決に向け全力で取り組むよう強く要望する。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

平成 24 年 9 月 19 日

射水市議会